

第19回 I S O E 運営委員会議事概要

・月 日 2009年11月18日(水)～20日(金)

・場 所 O E C D 本 部 C C 1 3 会 議 室

・出席者

[I S O E 幹 部 会]

V. Simionov(議長、ルーマニア)、G. Abera(次期議長、フランス)、

V. Holahan(副議長、米国)、水町(前議長、日本)、B. Ahier (O E C D / N E A)

[I S O E 技 術 セ ン タ ー]

C. Shieber、L. D ascenzo(ETC、欧州技術センター)、D. Miller、D. Lewis(NATC、北米技術センター)、林田(ATC、アジア技術センター)

[ワ ー キ ン グ グ ル ー プ]

J. Kaulard(データ分析ワーキンググループ副議長)

[I S O E 加 盟 国 代 表]

林氏(東京電力)ほか約20名(合計14カ国)

・議事概要

14ヶ国の代表が出席し、ルーマニア・チェルナボーク原子力発電所の Simionov 議長の司会で議事が進められた。

はじめに、議事に先立って O E C D / N E A の吉村次長より、放射線被ばく防護における I S O E の活動に期待する旨の挨拶があった。

1. 国別報告

参加各国(ドイツ、カナダ、韓国、スペイン、米国、仏、日本、スロバキア、チェコ、スウェーデン、スイス、ロシア、ルーマニア、スロベニア)より、カントリー・レポートが報告され、各国の原子力発電所での被ばく状況、被ばくに影響した事象・作業、今後の見通し等が示された。以下のような報告があった。

ドイツ : 集団線量 13.92 人 Sv/17 基(運転中)、1.59 人 Sv/17 基(デコミ)

カナダ : 1.08 人 Sv/炉。

韓国 : 0.51 人 Sv/炉。トップ 25%(0.45 人 Sv/炉)を目指している。Wolsong unit 1 にてリモートモニタリングをトライアルで実施予定。ドラム缶発生量が近年増加傾向(年間約 300 本/基発生。2005 年までは 200 本くらい発生)。

スペイン : Asco 発電所での放射性物質の大気放出(409MBq)事象を紹介。コフレンテス発電所(BWR-6)2008年定検で約2.4人Sv。対策はZn注入(2000～)と化学除染(2002、2009)。

アメリカ : 1.29 人 Sv/年・基(BWR)、0.68 人 Sv/年・基(PWR)。1991年に稼働率

70%程度であったのが2008年に90%まで上がったのが線量低下の主な要因。

- フランス : 0.68 人 Sv/炉。
- 日本 : BWR : 1.45 人 Sv/炉、PWR : 1.57 人 Sv/炉。定検期間が諸外国に比べて長い。
- スロバキア : 標準定検で25日(99.6人mSv)、長い定検で51.5日(376人mSv)。
- チェコ共和国 : 燃料取替停止時100mSv/炉~200mSv/炉(2002年~2008年)。
- スウェーデン : LWR : 1.1 人 Sv/炉、BWR : 1.2 人 Sv/炉、PWR : 0.9 人 Sv/炉。
- スイス : 0.58 人 Sv/炉(2009年1~9月)。今年8月に発生したベツナウ2号機での被ばく事故を紹介。2人がそれぞれ、37.8mSv、25.4mSvを被ばくし、スイスの法定限度(年間20mSv)を超過。
- ロシア : VVER : 0.694 人 Sv/炉、デコミ : 0.078 人 Sv/炉。
- ルーマニア : 23日定検で0.133 人 Sv。
- スロベニア : 定検は32日。0.65 人 Sv/炉。基本的なALARA目標は0.65 人 Sv/炉(定検含む)、個人線量10mSv以下。

2. 2009年のISOEの活動報告

ISOE事務局と4つの技術センターから、以下の2009年の活動状況及び活動成果が報告された。

- ・各技術センターの活動
- ・ISOE年次報告書案
- ・被ばく線量データ収集状況
- ・ウェブサイト上でのオンラインデータ登録システムの開発状況等

オンラインデータ登録システムは来年のデータ入力(2009年度実績)から使用される予定である。

3. データ分析ワーキンググループ(WGDA)報告

Kaulard 副議長より、以下の活動について報告があった。

- ・ISOEデータベースの完全性向上に向けた取組み
- ・データベースのグラフ機能であるMADRASアプリケーションの改良
- ・デコミタスクチームの活動(廃炉用データベースの改善)
- ・CANDU炉の標準作業の検討

4. I SO EデータのWeb移行

欧州技術センターよりISOEデータベース(現状ACCESS)のWeb(オンライン)への移行作業状況が報告された。また、オンラインでの線量データ登録における検証方法、手順等について議論された。

5. ISOE 年次報告書

事務局より、第18 ISOE 年次報告書案が報告され、本会議以降の追加予定情報を含めて承認された。

6. 2010年の活動計画

事務局より2010年の活動計画案が報告され、承認された。

7. 今後の会合、シンポジウムの予定

2010年 1月11日(月)～13日(水)	2010 ISOE 北米 ALARA シンポジウム(米国)
2010年 5月21日(金)	ビューロー、技術センター会合(フランス)
2010年 9月13日(月)～15日(水)	WGDA(データ分析WG)会合(フランス)
2010年 9月又は10月	2010 ISOE アジア ALARA シンポジウム(韓国)
2010年 11月15日(月)	ISOE 運営委員会(ケンブリッジ、英国)
2010年 11月16日(火)～19日(金)	2010 ISOE 国際 ALARA シンポジウム(英国)

以上